



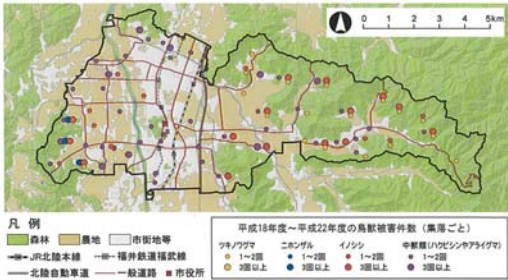
- 「野生鳥獣と人の共存」の実現のため、被害を受けにくい環境づくりや有害鳥獣捕獲をバランスよく実施するとともに、捕獲した個体を地域で有効に活用する取組を推進。
- 「鳥獣被害対策を通じた活力ある地域づくり」の実現のため、市民が情報を共有し自ら取り組もうとする意識を醸成する体制づくりを進めるとともに、対策を通じて地域振興につながる活動を展開。

鯖江市の課題

○平成12年頃より市東部の山間部において、イノシシによる農作物の被害が顕在化し、平成22年には水稻被害の拡大により、被害額は362万円まで増加。



《イノシシによる水稻倒伏被害》 《家屋侵入するハクビシン》



《鯖江市における鳥獣被害の状況〔H18～H22〕》

主な対策

市民と市が協働して「鳥獣害のないふるさとづくり」を実現するため、「人と生きものふるさとづくりマスタープラン」を策定（平成24年3月）

【主な活動内容】

○「さばえのけものアカデミー」の開講

マスタープランを市民に浸透させるためのシステムとして、鳥獣被害対策のリーダーを育成する「さばえのけものアカデミー」を平成24年度より開講。



《アカデミー実習風景》

○サル・シカの生息状況の把握

市内に出没するサル2群に発信器を装着し、行動域を調査。被害拡大が懸念されるシカについて、市内4カ所にモニタリングポイントを設置し植生の衰退を経過観察。



《発信器装着》

○市民主体の継続的な取組体制の確立

集落や地区区長会への出前講座を通じて集落間の話し合いを促進し、集落ぐるみ・集落連携体制による対策を支援。鳥獣害対策ツアーリズムや里山ピクニックの開催による対策を通じた外部人材との交流を実施。



《区長会出前講座》

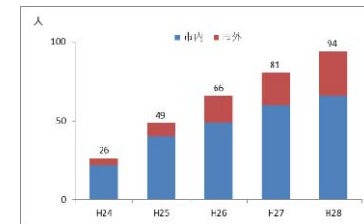


《里山ピクニック風景》

対策の効果

○地域リーダーの活躍

平成24年度の「さばえのけものアカデミー」開講以降、5年間で94人の地域リーダーが誕生し、地域の鳥獣害対策の核となって、被害防止活動を実践。



《アカデミー修了生数 H24～H28》



《地域リーダーが講師となり研修》

○鯖江市の鳥獣による農作物被害額の減少

H22年：362（万円）（被害額ピーク）

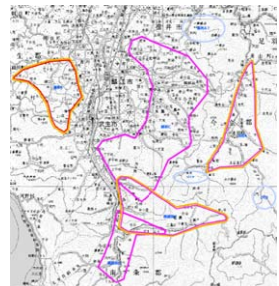


H29年：56（万円）

○市域を超えた広域連携活動

サル群れの行動追跡により行動域が市域を超えていることが判明したことから、丹南地域5つの自治体が連携して、情報交換会や合同研修会を定期的に開催。

平成28年度より丹南地域有害鳥獣対策協議会を設立しシカ対策にも着手。



《丹南地域サル推定加害群分布図》

○鳥獣被害に対する市民の意識調査、鳥獣被害対策に関する集落状況調査の結果、様々な課題が判明。

【調査から判明した課題】

- ・鳥獣被害への理解と意識に関する世代間ギャップ大
- ・農作物対策における非農家の市民の協力が得にくい



《集落状況調査》

等々

被害が発生している集落に対して、集落主体の対策を促すために、まずは行政が積極的に関与。

・被害への理解と協力に関する世代間のギャップが大きい、
・非農家の市民の被害対策への関与が薄い

・被害対策の技術が十分普及していない。
・非農家の市民の協力が得にくい
・被害対策の維持管理作業が十分でない

きっかけ

イノシシによる農作物の被害が顕在化した集落から、対策を講じてほしいとの強い要望

Step1 (H17~) 対策の着手

- ・侵入防止柵(電気柵等)の設置支援
- ・山ぎわの緩衝帯整備
- ・集落リーダー育成研修会の開催
- ・被害や出没状況などの情報収集し、「さばえのしし新聞」やホームページで情報提供 など

Step2 (H23) アンケート調査等の実施

○鳥獣被害に対する市民の意識調査

市民2千人を対象に、鳥獣被害の認識、思い、被害が発生した場合の解決策、対策の取り組み等についてアンケート調査

○鳥獣被害対策に関する集落状況調査

被害対策に取り組む22集落に対して、取組状況や課題などについて、聞き取り調査



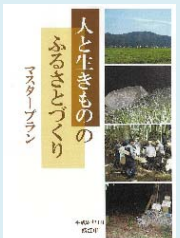
取組に当たっての秘訣

- 地域の住民自らが、その地域の課題に取り組む機運が大切
- 被害対策に関する正しい情報を、正しく収集・分析・伝達することが必要
- けもの目線に立った対策を講じることが必要

Step3 (H24.3) マスタープランの作成

【基本施策】

- 1 防除とバランスの取れた対策
- 2 有害捕獲した生物(いのち)を活用する取組
- 3 市民主体の継続的な取組体制の確立
- 4 人と人をつなぎ、地域を見つめ直す取り組み



マスタープランとあわせて、「鳥獣被害対策マニュアル」を整備

けものアカデミーの教本として活用



将来に向けて

『鳥獣害のないふるさとづくり』の実現に向けて...

- 鳥獣被害への市民の理解を深める
- 「野生鳥獣と人との共存」を実現するための行動は、きちんと守る
- 「鳥獣害対策を通じた活力ある地域づくり」を実現するために、対策仲間を増やす

※ H29.3月に第二次マスタープランを作成
公民館単位での地域ぐるみの対策を推進



Step5 地域リーダーの活動

- 市内各地区に2名リーダーが誕生し、地域における対策の中心的存在となって、地域ぐるみによる被害防止活動を実践
- 地域リーダーの中には、実施隊員として、地域の枠を超えた活動を展開
- 地域リーダーの活動として、リーダーのためのハンドブックを製作

取組を経て...

これは便利



リーダーハンドブック (フィールド調査編)

Step4 マスタープランの推進

- ・マスタープランの浸透、被害対策のリーダーを育成を図るため「さばえのけものアカデミー」を開講
- ・ICTを活用したサル、シカの生息状況把握
- ・侵入防止柵の整備、山ぎわ緩衝帯の整備
- ・里山で栽培されている野菜や果樹と捕獲イノシシを地域資源として活用するジビエ料理会開催
- ・集落ぐるみ、集落連携体制による対策を支援
- ・地域外の方にも対策を理解してもらう行事を開催